

— 広 告 —

KIT
キャンパス
レポート
文・出島二郎
マーケティングプランナー



佐藤 晴紀
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程一年
新潟県 中越高等学校出身

概念設計が好きだから、 まったく未知の飛行機をと。

ホンダジェットやMRJが話題になって、航空機業界は活気づいている。だから航空分野には人気が集まる。佐藤さんは第一志望に失敗したが、迷わず金沢工大へ。基礎から徹底的に学べる教育環境があること、夢考房などの課外活動が活発なこと、企業出身の先生が多いことなどが理由であった。「ヤル気がありさえすれば、し

廣瀬研究室は院生が七人、学部生が十五人。廣瀬康夫教授は川崎重工の出身。専門は航空機複合材料構造、民間航空機構造概念設計である。市街地の史跡等の散策を趣味とされるから、金沢暮らしは満足されているにちがいない。「廣瀬先生はいい意味でお父さん。納得できるまで丁寧に説明してくれます。航空機の設計業務を積み重ねてきているので、やはり現場にいた技術者はちがいますね。ぼくは、ボーイングプログラム、SR Iインターナショナル認定ワークショップなどに参加しました。さらに、シンガポールとインドネシアの学生とチームを組むライニングエクспレスにも。未知の国の未知の言語の中で共同作業をするのは楽しかったです。」

佐藤さんは概念設計が好きというのだが、その活動領域も広い。ワールドワーク派なのだ。学生スタッフとしてキャンパス案内やレコードライブラリーのラジオ番組を制作するアルバイトも。現在の研究テーマは「B737-800材料最適化について」である。「今の材料のアルミを新しい複合材料にしたらどうなるか、かつコストが安くなるのか、ということ。ここには革新複合材料研究開発センターもあるんですよ。また航空機をゼロから考えるのはおもしろい。小さいころから仮想の乗物を作るのが好きだったので。就職は航空機を取り扱っている商社に入りたい。技術系で学んだことを人と接する中で発揮できる総合的な仕事につきたい。」

静かに語る佐藤さんだが、この話をする時、力が入った。もっと広くて遠くて深い世界へ。私は新しいエンジニアの挑戦すべき場所がそこにもある気がしてならない。

金沢工業大学
石川県野々市市扇が丘七ー一
電話番号(076)22481100